



Eメール kusunoki_mori@feel.ocn.ne.jp

ホームページ <https://minnanomori.jp/hoiku/kusunoki/>

自然を大事に考えられる子どもたちに

遅咲きだった桜の花もあつという間に散っていき、汗ばむ陽気の日も増えてきました。部屋の中に響き渡っていた新入園児の子どもたちの泣き声も少しずつ落ち着き、担任を求め安心する姿や、見守られて園内を探索する姿も多くみられるようになってきました。

さて4月の中旬に飾られた鯉のぼりですが、例年の鯉のぼりプラスもう一匹空を泳いでいる鯉のぼりがあることに気が付いたでしょうか。ちょう組の子どもたちが、散歩先で摘んできたたんぽぽの花を、大鍋で煮て色を出し(この時はまだ茶色だったそうです)、魔法の粉(みょうばん)を入れることで色の変化を楽しみながら大きな白い布に色付けし、友だちと一緒に大きな鯉のぼりを完成させました。自然物の変化をあそびを通して肌で感じ、その過程の不思議さを実体験することで自然を大切に考えられる子になってほしいという担任の思いがありました。これから夏に向けては虫探しや飼育など大いに満喫できるその一方、扱い方や育て方を通して、生と死に向き合ったり、自然事象の変化を感じたりしながら自然は私たちの生活の一部として密接に関わっていることを子どもたちと一緒に考えていけると良いですね。



『ちいさいなかま』を通して子育てを共に

園文庫に『ちいさいなかま』という本が置いてあるのをご存じでしょうか。実は、皆さんのお手紙が入っているメールボックスの上の棚に置いてあります。この『ちいさいなかま』は分厚い難しい本ではなく、誰でも気軽に手に取って読めるくらいの薄いちいさな本です。お母さんたちの子育ての悩みや困っていること、子どもを育てていく上で大切にしたいことが実体験として書いてあったり、私たち保育者の保育に対する悩みや子どもたちと関わっていく上でどう考えたらよいのかヒントが書いてあったりと、お母さんにとっても保育者にとっても参考になる内容となっています。私たち職員もこの本を使って気になったページについて、自分の思いを語ったり、他の職員の考えを聞いて保育を語り合う機会を設けています。

忙しい毎日だと思いますが、ぜひ一度手にとって目を通してみてください。(借りるのも大丈夫です！いつでも職員に声をかけてくださいね！) ちなみに『ちいさいなかま 5月号』のおすすめ内容は…

「子どもと過ごすゆたかな時間」ちいさいなかま2024 5月号 P26～



子ども時代にいかに“自分で決めた”ことが大事にされているか、大事にされた気持ちは実感として幸せな記憶になり、それが自分で「一歩進んでみよう」という気持ちにつながっていく。おとなは子どもたちを導くものではなく、子どもの思いに寄り添い耳を傾けながら共に歩んでいけるといいですね。